

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473700258	事業の開始年月日	平成9年11月27日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団 三喜会		
事業所名	グループホーム青葉台		
所在地	(227-0054) 横浜市青葉区しらとり台3-9		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
		通い定員 名	
		宿泊定員 名	
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 9 名	
		ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpJDetails.aspx?JGN0=ST1473700258&SVCD=320&THN0=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青葉台の地で17年、地域に根ざした認知症介護に取り組んできました。建物は決して新しいとは言えませんが、ゆったりとした暖かみのある環境の中で皆様自分らしくゆったりと暮らしていらっしゃいます。利用者様、スタッフ共にここでの経験が長く、非常にアットホームな雰囲気です。ここ数年、利用者様の重度化が進んできた為今まで以上に医療連携に力を入れています。利用者様がお望みであれば最期まで青葉台で自分らしく暮らせるよう、主治医、看護師等と連携協力し 最大限の支援をさせて頂きます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年3月16日	評価機関 評価決定日	平成27年5月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東急田園都市線青葉台駅から徒歩8分の住宅街にある木造2階建ての1階部分です。同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所、訪問看護ステーションを併設しています。平成9年11月「横浜市のグループホームモデル委託事業として発足し、昨年開設17周年を迎えています。

<優れている点>

管理者はさわやかで、ユーモアと活気があり明るい雰囲気です。「ほんわか、あったかいホームに」を実現しています。居室は家であることを踏まえて、夫婦の時間、親子の時間を事業所側でできるかぎり支援しています。サービス計画書の生活の質の支援が具体的です。個人の気持ちを優先し、お酒を飲みたい、一緒にスーパー銭湯に行きたい、日帰り旅行に行きたいなどの気持ちを汲み、本人のプランのもとに管理者が付き合うなど、事業所全体で個々の気持ちに寄り添っています。看取り経験のある職員を中心に医師や看護師の応援を得て、看取りに取り組んでいます。湯灌、エンゼルケアも職員と家族で実施しています。

<工夫点>

入居者や家族の癒しとなるよう事業所内で犬を飼い、入居者の笑顔を引き出しています。専門教育を受けた職員が中心になり経鼻経管栄養使用などの重度な利用者を受け入れると共に、ミトン装着などの身体拘束廃止に向けて、取り組んでいます。女子会、呑み会などの場もスタッフのコミュニケーション醸成に役立っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム青葉台
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を創り、玄関,事務所、台所等に掲示しています。職員全員で理念を共有化し日々のケアの中で実践しています。	理念は玄関、事務所、台所などに掲示しています。毎日朝夕2回のミーティング、月1回のカンファレンス時に確認して意識づけを行っています。家庭的な環境の中で利用者が安心して生活できるように気を配り、より良い支援ができるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	朝夕の挨拶等、声を掛け合うことが出来ています。自治会にも参加し、夏祭り 獅子舞等地域のイベントにも参加させていただいています。（自治会の副会長、民生委員が窓口になって下さる）	利用者は散歩や買い物の際に、近所の人に挨拶しています。自治会に加入し回覧が回ってきます。地域の夏祭りには利用者のために会場の一角が用意され、正月の獅子舞は事業所まで来てくれています。洗濯、掃除、傾聴やギター演奏のボランティアも来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近くにお住まいの方が立ち寄り相談に来られることがあります。また、毎年介護者の集いで、認知症についての講義等地域の方向けに行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議において委員の方々から頂いた貴重な意見を真摯に受け止め、サービスの質の向上に役立てています。	会議は年6回開催し、メンバーは利用者家族代表、自治会副会長、民生委員、地域ケアプラザ、事業所、法人職員です。委員からは、職員の言動を始め、専門用語は使わないでほしいなどの忌憚のない声を聞くことができます。議事録を毎回全家族に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	横浜市の青葉区担当職員、青葉区のケースワーカーと面識があり協力し合える関係が出来ています。	地域ケアプラザとは運営推進会議メンバーや事業所管理者の「介護者の集い」講師参加など良い交流をしています。生活保護の人もあり、区保護課のケースワーカーが半年に1回ぐらい来訪しています。市、区のグループホーム連絡会の研修会に参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束についての正しい知識を持っています。またカンファレンスで事例等を通じて身体拘束の有無を確認しています。（玄関の施錠は安全を考慮し実施）	利用者の安全確保のため、玄関は施錠していますが、外出願望のある利用者には極力職員が付き添って外出しています。生命に係わる止むを得ない状況でのミトン着用の際には、家族了解の下、カンファレンスで検証し話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のカンファレンスや研修等を通じて、虐待防止に対するお互いの意識を高めあっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の中にも実際に活用されている方がいます。また、利用者の権利擁護に係わる介護相談員の実習受け入れも毎年行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族、担当のケアマネ等実際に来所して見学をしていただきます。その上で十分な説明を行い、理解、納得をして頂いてから契約を行います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問の際に何でも話していただいています。また、運営推進会議も、そのような機会として捉えています。	毎月1回連絡帳で利用者の状態を報告しています。地元の利用者がほとんどの為、家族の面会は多くあります。家族から建物が古いという意見が出て、助成金を申請して、キッチンなどの改装にも繋がっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスにおいて、様々な意見や提案を出してもらっています。また、特に大事にしているのは、普段からスタッフが意見や提案をし易い環境づくりをすることです。	カンファレンスは月に2回、職員が落ち着いて話しのできる夜7時半頃から開催しています。できるだけ全出席者が発言できるようにし、職員の気づきやアイデアは、日常の業務やケアに活かしています。職員提案で飼った犬が利用者や家族を癒しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力、取り組んできたことに対して適切な評価をしてくれています。また、スタッフ各々が自己研鑽できる環境を与えてくれています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフまた事業所全体のレベルアップの為、様々な研修への参加の機会を与えてくれます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交流し易い環境を提供してくれています。特に管理者はそれぞれのホーム良いところを取り入れ、ホームの質の向上に活かしています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の関係作りは特に大切なので、十分な時間を取りじっくりと向き合っていきます。焦らずゆったりとした環境の中で自然な関係を築けるように力を入れています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者様同様、ご家族との関係も非常に大切にしています。お話をじっくりと聞くこと、それに対して適切な答えをすることが大切だと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずよく話を聞く機会を作り、本当にその方が必要としているサービスを見極めていきます。また、他のサービス機関へ繋げたり紹介したりということも行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内で、得意分野で力を発揮していただけるように努めています。ホームの主役は利用者様です。スタッフは脇役として出来ない部分をそっと手助けをさせていただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会、お手紙、電話等を通じて何かあればとにかく家族に連絡をするようにしています。また、誕生会、記念祭等のイベントを通じて利用者を共に支える関係が出来ています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が、ホームを利用者様の家だと思って気軽に来られるよう配慮しています。また、ご希望の方にはご家族の住む自宅へ定期的に帰ることが出来る為の支援を行なっています。	家族や知り合いの来訪を快く迎えています。家族が事業所に泊りがけで来訪したり、利用者が家族と一緒に一時帰宅したりしています。馴染みの店にも職員が同行し出掛けています。墓参りは家族が基本ですが、依頼を受けて職員が同行する場合もあり一人ひとりに合わせて支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の自然な関わり合いを大切にしています。利用者同士が自然に交流できるように支援しています。トラブルが起きそうな時は、状況をいち早く察知しさりげない対応でトラブルを回避しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	一度、利用が中止になった方であっても、相談を受けたり、または その方が必要としている支援が受けられるようお手伝いしていきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人の思いを一番に考えています。本人が意思表示しにくい場合は本人の気持ちに寄り添うと同時にキーパーソン、その他の家族から本人の意向を汲み取り、意向の把握に努めています。	職員は利用者の思いや希望を聞き取り、個人記録に残して家族にも伝えていきます。食事の好み、お酒を飲みたい、たばこを吸いたいなどの希望は個別にルールを決めて、実現できるよう支援しています。利用者の喜びや笑顔に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	時間をかけてアセスメントを行います。可能な限りの情報を収集し、ご本人の支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアマネが介護スタッフを兼務しているので、様々な角度から情報を収集できます。利用者一人ひとりの特性を細かく、また総合的に把握しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族からは直接または電話等で意見をお聞きしています。また、ご本人、関係者からの意見もカンファレンス等で検討し即プランに反映させています。	6ヶ月に1回見直しを行っています。プラン案を作り、担当者会議でプランをまとめ、看護師・医師からの意見を追加し、利用者・家族の承認をもらっています。毎月カンファレンス時に、利用者のモニタリングをしています。現在モニタリング様式を改善中です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録、業務日誌、連絡帳を活用し情報を共有しています。変更の必要なのは管理者を中心に申し送りで検討、即実践しています。変更内容は申し送り、連絡帳等を通じて伝えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者、ご家族の要望を大切にし、そのご要望に最大限応じるために柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	警察、消防、民生委員、自治会の役員等地域の方に全員が認知症であることをお知らせして、協力していただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホームでお世話になっている先生がいますが、ご本人、ご家族の希望を最優先しています。他にご希望の先生がいれば、その先生の受診、往診が出来るよう支援させていただいております。	今までのかかりつけ医に診察を受けている人は、管理者が同行・支援を行っています。通院が困難になった場合は、協力医院の訪問診療の医師に変更する例もあります。3月末までは職員として看護師がいましたが、4月からは医療連携の訪問看護師と連携します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーション、また医療連携の契約をしている看護師とはこまめに連携をとっています。何かあれば気軽に相談出来る関係が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院の担当医師、看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換に努め、本人、ご家族の意向を大切にしながら早期退院に向けた働きかけを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、ご家族の思いを大切にし、どこでどのように最期を迎えたいかを十分に話し合います。その上で、医師、看護師等の協力の下出来る事を最大限行っていきます。	入居時に「食事がとれなくなったらどうしたい」などのアンケートをとり、看取りの同意書を交わします。状況が変化したときには再確認をしています。看取り経験の豊かな職員が数人おり、看取りは19例実施し、摘便、湯灌、エンゼルケアもしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	終末期のケアを実践しているホームなので、どのような場合でも適切な対応が出来るように備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の訓練はもちろん、日頃から防災意識を高めています。いざという場合には、消防団、自治会、民生委員の協力を得ます。	年に2回夜間想定避難訓練をしています。消火器のピンを抜けなかった、訓練を重ねるしかないなどの反省を今後に活かすことにしています。重度の人は寝具に寝かせて廊下を引きずり、その際は頭を進行方向にするなど、消防署から細かい意見も貰っています。	民生委員や防災に協力的な人から声かけはありますが、実際には訓練時の応援はまだありません。文書化も大切ですが、実際に近隣の応援を得る方法を運営推進会議で話し合うことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様を一人の人として尊重しています。常に相手の立場に立ち、誇りやプライバシーを損ねる言動は慎んでいます。また、そのような言動があった場合はその場で管理者が直接注意しています。	トイレの扉を開けてしまう人がいるので、ドアに工夫をしています。家族の意志を尊重し、親の居室で休みたいという家族には「ここが家ですから」と一緒に宿泊してもらっています。呼び掛けは、個々の希望に応じて名前で呼ぶ、苗字で呼ぶなど対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクリエーションの参加等でも自己決定の場面を設けています。また、夕食の際は好みの食材をお聞きして調理していますし、おやつも好みのものを提供しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の過ごし方に、細かいスケジュールは設けておらず、その日の利用者様の状態、希望に沿った過ごし方が出来るよう支援いたします。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る方には、自分で着る洋服は自分で選んでいただいております。ご自分で選べない方には、好みを把握したスタッフが代わりに選ばせていただいております。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には、調理（皮をむく、切る、炒める等）、配膳、片付け等声掛けをして、手伝っていただいております。	食材は職員と入居者で買いに出掛けています。メニューは職員がつくれますが、入居者のリクエスト食も入れています。ミキサー食やお粥に混ぜる具もたいみそ、のりの瓶詰など、家族の支援も得て品揃えをしています。花見には弁当と飲み物を持って出かけるなど、楽しめるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの適正な量を把握し、支援させていただいております。特に、体調等優れない場合には、細かく管理をしていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師、歯科衛生士の指導の下、口腔内のケアを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	家族からの情報、利用者様の入居後のデータを有効に活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握。声掛けや誘導等を行い自立に向けた支援を行っております。	排泄はトイレであることを原則にして、介護度の重い人も車いすでトイレに行く支援をしています。個々の排泄パターンをつかんで誘導し、リハビリパンツから布パンツになった例もあります。トイレ内にカーテンコーナーがあり、車いすで一人で排泄する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、水分補給、運動、マッサージ、ヨーグルトの摂取、服薬等様々な取り組みを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	安全な環境で安心して入浴していただくことを第一に考えて支援しています。体調や気分を考慮し、その方に適したタイミングで入浴していただきます。	週に3回入浴しています。介護度の高い人は2人介助で入浴し、シャワーイスと手すりで立位をとり、清潔にしています。浴室内、脱衣所ともに暖房があり、ヒートショックにも配慮した入浴支援をしています。ゆず湯での楽しみ湯もしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調、年齢、その方の生活習慣等を考慮し、日中横になれる時間を設けております。また、夜間は温度、照明から体調面まで気を配り、安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の説明書を見てしっかり把握しています。また、誤薬のないよう日勤と遅番で2重チェックを行っています。 ※薬のセットは薬剤師に依頼しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の日々の様子や、ご家族から聞いた生活歴、興味、関心等の情報を活用し、1人ひとりが日々の生活の中で喜びや生きがいを実感できるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や体調、気分等を考慮し安全を確保した上で散歩や買い物等一緒に出掛けるよう心掛けています。	日常的な食材の買い物の他に、近所をぐるっと回る散歩もしています。毎日出る人も、一人でぶらっと買い物に行く人もいますが、重度の人で動かせない人もいます。春になったら外気を浴びる支援を積極的に取り組んでいく計画です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段の管理はホームでしていますが、買い物際にはお財布を本人にお渡しし、支払いまでご本人にしていだいております（出来ない部分は職員がお手伝いいたします）。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があった時には、職員がお手伝いをして、ご家族とお電話でお話しをしていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間では、小物、花を置き季節感を表しています。また利用者様にとって馴染みのある懐かしいものを配置し、居心地良く過ごしていただく為の様々な配慮をしています。	建物自体は築40年のもので、懐かしい雰囲気があります。廊下の一角にはフラワーセラピーのコーナーもあり、ペット犬が入居者のアイドル役を果たしています。リビングには柱時計、ソファ、加湿器、ぬいぐるみなどが置かれ、やすらぎの場になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	デイルーム、廊下、ベランダ等にソファや椅子を設置し、一人あるいは気の合った仲間と過ごせる空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各お部屋は本人、ご家族と話し合い、家具等の配置を決めています。少しでも安心して過ごしていただけるよう新しい物よりも使い慣れたものをお持ちいただくようにアドバイスさせていただいております。	個々の部屋は家であるを原則に、毎日配偶者が来訪して夫婦の時間を大事にしている例、家族が宿泊していく例、床に畳用のごさを敷く例など、自分の「家」であることを最優先しています。位牌、パソコン、テレビなどを持ち込み、安住の場になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の身体機能を安全に活かせるよう、また、認識力を発揮できるよう様々な工夫がされています。（手摺の設置、バリアフリー、場所を示すラベル表示等）		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム青葉台

作成日： 平成 27年 6月 30日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	防災訓練について 地域住民の参加が出来ていない	まず、隣近所との関係をつくる。 隣の施設（花笑み）との協力体制を結ぶ。	ホームでの年2回の訓練に、花笑みの職員の方 に参加していただく。	1 2 ヶ月
2	34	看取りを行っているが、以前に比べて 臨機応変な対応の出来る職員が減ってきてい る。	夜勤を行う全ての介護スタッフが緊急時の対応 を含め、適切な対応、支援が出来るようにして いく。	実践で学んでいくことでしか身につかないこと も多いが、看取りの研修にも力を入れる。年2 回の研修を実施していく。	1 2 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月